梅鶯仏教壮年会報

第133号
2016年
5月22日

梅鶯仏壮総会

去る四月二十三日に、平成二十七年度の梅鶯仏壮総会が開催され、森勝昭会長が議長となり平成二十八年度の行事予定（左記）等が決定されました。

平成二十八年度行事予定

5月29日（日）例会（17時）
6月4日（土）法輪寺永代経法要
7月31日（日）例会（17時）
9月24日（土）親睦旅行
25日（日）親睦旅行
11月26日（土）報恩講
12月30日（金）除夜会
1月29日（日）例会（17時）
3月25日（土）役員会・総会

次回例会

五月二十九日（日）
午後五時より

「金子みすゞ記念館」を訪ねて

田中　薫

長年の念願が叶って、「金子みすゞ記念館」を訪ねることができました。

実は、私にとって山口県は、2度目になりますが、最初は、随分昔に仕事での訪問だったので、ほとんど記憶に残っておりません。

今回の梅鶯仏壮研修は、いろんな場面で心打たれる旅行となりました。「金子みすゞ記念館」に、いきなり予備知識もなく行ったとしても、少なからず感動を得ることは出来るでしょう。

が、やはり、上山大峻先生のご自坊で、「金子みすゞ」さんに関する、先生直筆書の生解説を聴かせて頂いたことが一番の収穫でした。

みすゞさんの、幼少時の生い立ち、彼女が仏教「浄土真宗」門徒の家庭に生まれ育ち、純粋な心が培われた生活環境、天性の豊かな感受性と文学的才能が、あのすばらしい「詩」を作り上げたこと。

みすゞさんの代表的な詩を、わかり易く解説して頂き、普段忘れてしまっている、他者への思いや、感謝の気持ち、命の大切さ等が、詩を通して沸々と湧き出でて、自然と金子みすゞさんの世界に引き込まれ、最後は目頭が熱くなってしまいました。

また、先生の「青海島鯨墓」へのご案内も、心に残りました。

「鯨とともに生命は母鯨と共に終わったが、われわれの目的はおまえたち胎児をとることではなかった。むしろ、海へ放してやりたいのだが、広い海へ放たれても、独りではとても生きてはいけまい。それ故に、われわれ人間と同様に念仏回向の功徳を受け、諸行無常の悟りを得てくれるようにお願いする。」（照誉得定師解説）

日本の調査捕鯨に関して、オーストラリアのシーシェパードが、一方的に攻撃しておりますが、鯨を含む、あらゆる命に対する日本人の気持ちが、この鯨墓にあらわされているように思えます。

命を奪ったことに関する懺悔の心と、優しい思いやりを持っている日本人がいまも大勢いることを全世界に知ってもらいたいものです。

今回、何かと盛りだくさんの内容と、中身の濃い研修旅行になりました。

個人的には、とても満足いたしております。

有難うございました。

次回の「奈良薬師寺」研修も是非とも参加させていただきたいと思っております。

合掌

題材法話

4月中旬に熊本地方を中心とする大きな地震が発生し、甚大な被害がもたらされました。

地震列島である日本では、これまでも多くの地震が発生していますが、今般の熊本地震の最大の特徴は、14日と16日とに連続して震度7の二つの大きな地震が発生したことであり、この二つの地震は¬それぞれ独立した活動であると見るべき」という指摘があります。

通常大きな地震が発生した後には余震が続き、この余震も怖いのですが、ただ地震そのものは収束の方向にあります。

しかしながら今般の熊本地震は、二つの断層帯が連動することで発生する¬連動型地震」と見られ、一つの地震が他の地震を誘発したものと考えられることから、現在もなお大きな地震発生の可能性があるということで、被災地の皆さんの地震への

不安は止むことがありません。

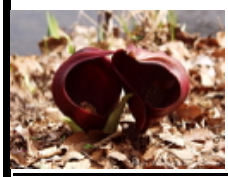
そのようなことから、今なお車の中で避難生活を送る人たちも多く、被災者の実態把握そのものも十分ではないそうです。

亡くなられた方々に哀悼の意を捧げ、地震活動が収束して、被災者の皆さんが一日でも早く復興に向けた取り組みができることを、心から願うばかりであります。

地震に関する研究が進んでいても、今般のような地震の形態は全く予測ができなかったそうで、自然の移ろいの前では、人間の計らいには限界があることを改めて痛感します。

いつ私自身が路頭に迷うようになるかも知れません。

¬火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏ねんぶつのみぞまことにておはします」（この世は燃えさかる家のようにたちまちに移り変る世界であって、すべてはむ



なしくいつわりで、真実といえるものは何一つない。その中にあって、ただ念仏だけが真実なのである）という歎異抄に示される親鸞聖人の言葉が迫ってきます。

共にお念仏のみ教えに生かさせていただきたいと思います。

○伊蘭の林の喩え

¬観仏三昧経」というお経の中に¬伊蘭の林」に喩えたご説法があります。

伊蘭という木は¬極臭木」ともいわれ、その名の通り極めて悪臭がする木で、その臭いはまるで屍のような臭いなのだそうです。

また、伊蘭の木は恐ろしい毒を持っており、その実を舐めただけでたちまち死に至るのだそうです。

その伊蘭の木が生い茂る¬伊蘭の林」へは、とても足を踏み入れることなどできないことでしょう。

ところが、伊蘭の木が生え茂る林の中に、牛頭栴檀（ごずせんだん）という木の芽が生え出した途端に、その伊蘭の林が素晴らしい香りの林に一変するのだそうです。

ただしそれは、牛頭栴檀の木の芽が伊蘭の木を駆逐して枯れ絶えさせ、その後に栴檀の木の良い香りが満ちたというのではないのです。

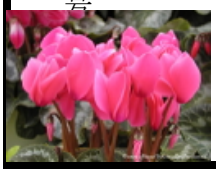
伊蘭の木が、伊蘭の木の薫りのまんまで栴檀の木によって、香しい薫りへと変えられていったからだというのです。

こうこが大切なところです。

○お念仏の味わい

私たちは、欲と怒りと愚かさという三毒の煩悩に満ちあふれた存在で、それはまるで悪臭を放つ¬伊蘭の木」のごとくです。

ところがこの煩悩具足の凡夫である私に、ひとたび牛頭栴檀のごとくお念仏が届いて下さったとき、この私が一変するのです。

以下次号

総会住職法話より